

あ な た と 市 政 を む す ぶ



広報  
No.182

かんおんじ

2020 / 令和2年

12

December

セル7



特集

ちゃんと、交通安全

隊員は、現在約100名。見守り活動だけではなく、社会科の「地域探検」の授業で地域を案内したり、家庭科の授業で裁縫やミシンを教えたり、校内の樹木の剪定をしたりと、活動は多岐に渡ります。「得意なものをみんな持っているから、100人いたら大抵のことができるんよ」と石川さんは胸を張ります。

**15年で見える変化**

**あいさつと交通マナー**

隊員約15人が朝7時から8時まで各交差点に立ち、子どもたちに「おはよう」と声をかけ続けてきましたが、石川さんはここ数年で子どものあいさつが減ってきたと感じています。「あいさつは社会に出てでも大事。毎日言い続けることで、子どもたちは、あいさつの大切さを分かってくれるはず」

そして、もう一つの変化が交通マナーです。「車のマナーがどんどん悪くなって、黄色信号で止まらないのが普通になってきている。急いでいるのは分かるけど、事故が起きたら



イエロー隊や保護者が毎朝交差点に立ち、登校を見守ります

大変なこと。子どもは大人の背中を見て育ちます。大人がもつとちゃんとせんといかん」

**一番のやりがい**

イエロー隊の活動は、文部科学省や香川県警察をはじめ数々の表彰を受けてきましたが、一番うれいのは子どもたちや親からの感謝の声だと言います。他の地区の保護者から「いいなあ、常磐はイエロー隊がいて」と言われることも。「元気で動ける間は、あいさつ運動と見守りを続けたい。それが、もう習慣になつてるしなあ」と世話人の皆さんは笑いました。



常磐地区イエロー隊の世話人代表の皆さん。写真左から、高橋秀数さん、岡田恭明さん、小西和孝さん、石川義行さん。岡田さん、小西さん、石川さんは発足当初から世話人代表を務めてきましたが、今年度で代表を引退。「次の世代の人が新しいイエロー隊を作ってくれば」と期待を寄せ、「元気な間は毎朝のあいさつ運動は続けるよ！」

## Interview

長きにわたって、子どもたちの安全を見守っていただき、授業でもたくさん関わっていただきありがとうございます。教員だけでは行き届かないところを、豊かな経験に基づき支援していただいています。

地域の方と関わる回数が多いほど、子どもたちにとって「どこかのおじいちゃん、おばあちゃん」ではなくなります。親近感が湧き、地域の方が自分のためにしてくれているんだという思いが強くなるでしょう。そして、きっと地域を大事にする子

に成長してくれると思っています。



常磐小学校  
石川 英司校長

毎朝出勤するたび、イエロー隊の皆さんや保護者の方が交差点に立っていてくれる姿を見ると、安心して子どもを学校に通わせることができます。

大人と接しないとあいさつする機会が少なくなりますが、イエロー隊の方が毎朝指導して下さるおかげで、自然に子どもたちに身に付いていっているように感じています。

子どもの数が少なくなっていく中、子どもが育つ環境をいかに整えていくか、私たち保護者も考え、取り組んでいかなくてはと思います。



常磐小学校PTA会長  
倉橋 厚雄さん



常磐駐在所の薦田警部補は毎朝通学路に立つ

**増える交通死亡事故**

県内で交通死亡事故が相次いでいます。市内でも10月末時点ですでに前年の交通事故死者数を超えており、その全てが車両との接触事故です。年末は交通量が増加するため、特に注意が必要です。

交通量が多い登校時での立哨や下校時のパトロールなど、地域で子どもたちの安全を長年見守り続けてきた住民組織があります。常磐地区住民による「イエロー隊」です。

**常磐地区イエロー隊 結成から15年へ**

「定年退職したら、特に男性は家に閉じこもりがち。年を取っても元気でおられないか」と思い、家に閉じこもった人



イエロー隊事務室の壁は、子どもたちからの感謝のメッセージや授業で活躍する隊員の写真でいっぱいです

たちを外に引っ張り出すにはどうしたら良いか、常磐の4地区(流岡町・村黒町・出作町・植田町)の4人で話し合っ

できたんがイエロー隊」と、発足当初から世話人代表を務める石川義行さんは話します。市教育委員会や常磐小学校と相談を重ね、小学校の空き教室を事務室にして平成18年に発足しました。子どもたちにも言いやすい名前をと児童会で公募し、「イエロー隊」という名前に決まったそうです。

## 交通事故を防ぐポイント

### 運転手の皆さん（車・自転車）



#### ●運転中は運転のことだけ考え、前を見て

事故の多くが、「通り慣れた道」で「考え事・よそ見・ぼんやり」していた時に起きています

#### ●交通ルールを守りましょう

①速度を守る ②一時停止 ③信号機のない横断歩道に歩行者がいたら一時停止 ④運転中は携帯電話使用禁止

#### ●自転車を運転するときはヘルメット

自転車乗車中の死亡事故では、ヘルメットをかぶっていたら助かった事例が多いです。自転車に乗るときはヘルメットをかぶりましょう

#### ●自転車は車道の左側が原則

原則、自転車は車道を左側通行します。自転車が通行できる歩道がある場合は、車道寄りを徐行しましょう

市内では停止線で止まらない車が多く、出会い頭の事故が多発しています。標識、停止線をよく見て運転しましょう。



この標識がある歩道は自転車も通行できます。ただし、歩行者が優先です。

### 歩行者の皆さん



#### ●出かけるときは、明るい服装で

冬は服装が暗い色になりがちです。明るい色でも、赤色や青色は見えにくいので、白色や黄色を着用しましょう

#### ●反射材は、運転手から見えるように

反射材タスキは横からだ見えにくくなります。靴の横面に反射材シールを貼ったり、腕に反射材のバンドを付けたり、どこからでも見えるようにしましょう



反射材は地域支援課（市役所2階）で無料配布しています

### 年末年始の交通安全県民運動 12月10日～令和3年1月10日

年末年始は交通量の増加や飲酒の機会が多くなり、交通事故が増えると予想されます。一人ひとりが交通ルールを守り、交通事故を防ぎましょう。

- ①高齢者の交通事故防止 ②夕暮れ時・夜間の交通事故防止と飲酒運転の根絶
- ③自転車の安全利用と正しいルールを守る ④シートベルトとチャイルドシートの着用徹底
- ⑤横断歩道利用者の安全確保

問い合わせ先 地域支援課 ☎23-3949

### 観音寺市内の交通事故 1/1～10/31

区分	令和2年	前年
発生件数	108件	132件
死者数	5人	4人
負傷者数	125人	164人

### 信号機のない横断歩道における 車の一時停止率

順位	全国平均	21.3%
47位	宮城県	5.7%
46位	東京都	6.6%
45位	岡山県	7.1%
44位	富山県	10.7%
43・42位	大阪府 徳島県	11.8%
41位	香川県	12.1%
1位	長野県	72.4%

参考：日本自動車連盟（JAF）が令和2年に実施した調査結果

市内では、11月9日現在で5人、県内では50人が交通事故で亡くなっており、前年の年間死者数をすでに上回っています。都道府県別でも香川県は人口10万人当たりの死者数が全国1位です。ことしもあと1カ月。安心して新しい年を迎えられるよう、年の瀬の慌ただしい中でも心を落ち着けて、交通安全を心掛けましょう。

### 都道府県別の交通事故死者状況

順位	人口10万人当たり死者数		
	全国平均	1.84人	死者数
1位	香川県	5.23人	50人
2位	高知県	4.15人	29人
3位	福井県	4.04人	31人
4位	三重県	3.65人	65人
5位	佐賀県	3.56人	29人

参考：香川県警察本部 交通事故発生日報（令和2年11月9日現在）

# 増える交通死亡事故

## Interview

### 事故は通り慣れた道で起きる

市内の死亡事故は、全て四輪車の運転手が前をよく見ていなかったことで起きています。「残業して疲れたな」など考え事や、ボーッとした一瞬に、自転車が飛び出してくるなどして事故は起きます。事故の大半は、初めて通る道ではなく通り慣れた道で起きています。運転している時は、運転のことだけ考え、前をよく見て運転してください。

### 運転に自信のある人はいない

交通教室で「運転に自信のある人はいますか？」と質問しても、「自信がある」と答える人は一人もいません。そうであれば、なおさら一人ひとりが注意する必要があります。免許を取りたての時は、運転に集中

し、慎重に運転していませんでしたか？それが次第に慣れていくと、確認行動を忘れてしまうのです。運転している限り、事故を起こす可能性は誰にでもあります。みんなが運転に気を付け、交通ルールを守れば、事故は確実に防ぐことができるはずですよ。

### パトカーでの巡回を強化

見回りを強化し、登下校時や通勤時間帯など、市内の端から端までパトロールをしています。パトカーの姿をいろんな場所で見せることで「気を付けよう」という意識を持ってもらえればと考えています。

観音寺警察署  
交通課長 本田 茂 警部

